

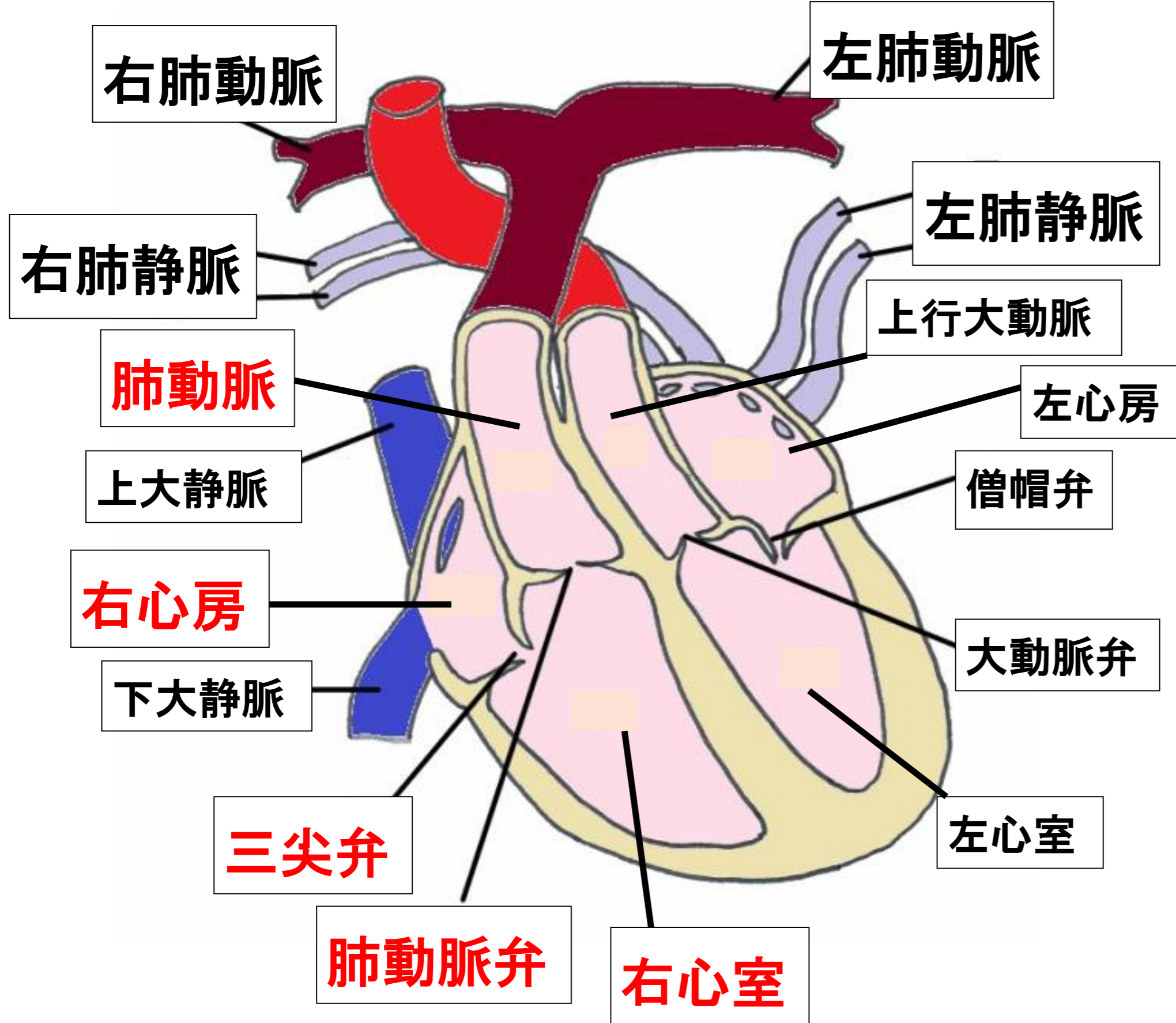
犬フィラリア症とは、

蚊によって媒介されるフィラリア虫が 犬の心臓や肺動脈に寄生することで呼吸困難や肝不全、腎不全などを起こす病気です。（寄生場所：図1参照）

20年ほど前までは 犬の死亡原因、第1位でした。現在、死亡原因の1位は悪性腫瘍。2位は事故。3位が感染症（犬フィラリアを含む）です。

**犬フィラリア症は予防が出来る病気です。
大切な家族を犬フィラリア症から 守り
ましょう。**

図1 心臓の解剖図とフィラリア寄生場所（赤字）



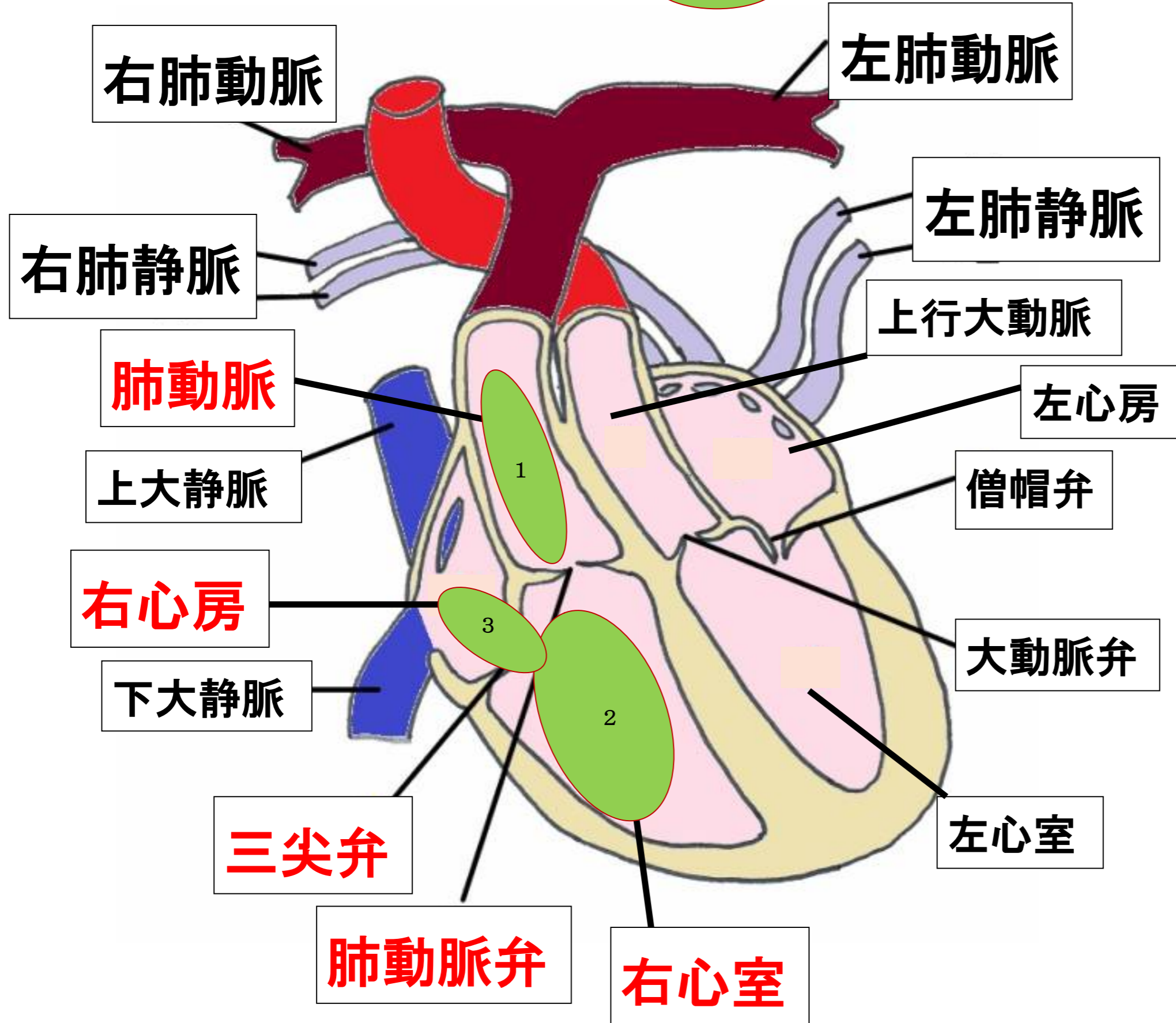
血液の流れ





全身から
↓
上大静脈、下大静脈
↓
右心系（右心房→右心室）
↓
肺動脈
↓
左右の肺
↓
右肺静脈、左肺静脈
↓
左心系（左心房→左心室）
↓
上行大動脈
↓
全身へ

赤字：フィラリア寄生場所

三尖弁、肺動脈弁、僧帽弁、大動脈弁は、血液が逆流しない働きをしています

図2 フィラリアが寄生した心臓  はフィラリアを表します



フィラリアは    の順に寄生します。寄生数が多くなるほど、 が大きくなり 血液が流れにくくなり、貧血で倒れることがあります。貧血で倒れた場合は、自分から起き上がりますので、焦らず対応して下さい。

もしも、倒れたら、

1. 首を伸ばし、鼻と胸を一直線のような体制にします。(大抵ここで自力で起き上がります)

2. 呼吸しているか確認します。(お腹が、動いているか確認して下さい)

3. 自力で起き上がらない時は、動かさずに獣医師に連絡して下さい。

フィラリアに感染しても 虫の数が少なければ、症状はありません。

また、感染していても きちんと治療をすれば 寄生しているフィラリアを駆除することが出来ます。

フィラリア症が怖いのは、

1、感染を知らずに放置すること。

2、感染の検査をせずに 予防薬を投与すること。

です。

フィラリアの検査は 動物病院で受けられます。

フィラリア症は、月に1回、薬の投与で予防できます。

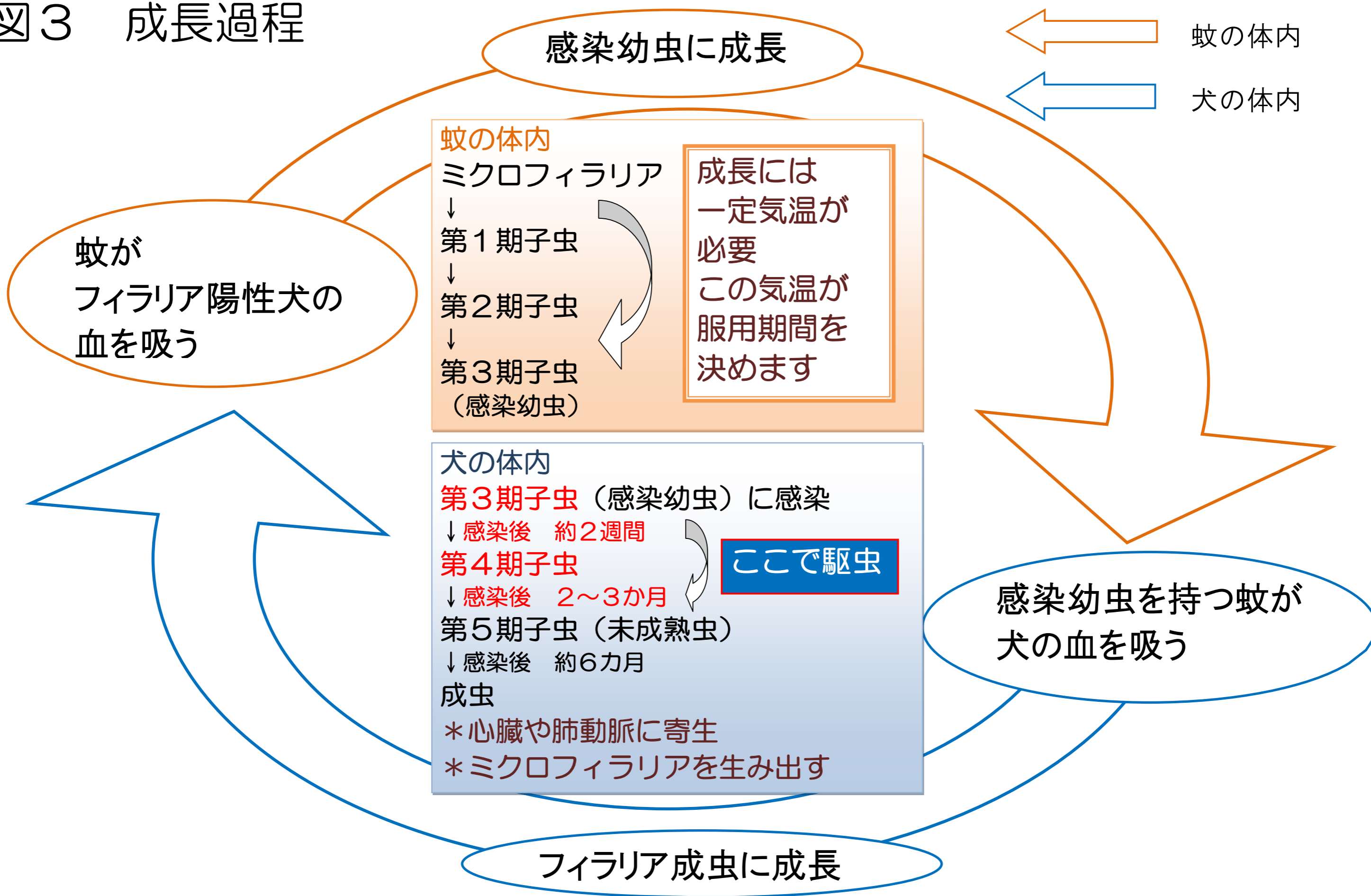
フィラリアの予防

予防は、フィラリアの成長過程を利用しています。

成長過程（図3参照）

1. フィラリア成虫は、犬の体内でミクロフィラリアを産みます。
ミクロフィラリアはこのままでは成長しません。また、寿命は1~3年です。
2. ミクロフィラリアを持った犬の血を蚊が吸うと、蚊の体内にミクロフィラリアが入ります。
3. 蚊の体内に入ったミクロフィラリアは、蚊の中で成長し、第3期子虫（感染幼虫）になります。
第3期子虫（感染幼虫）になるには一定の気温条件が必要
4. 第3期子虫（感染幼虫）を持った蚊が犬の血を吸うと、犬の体内に 第3期子虫（感染幼虫）が入ります。
5. 第3期子虫は、第4期子虫を経て第5期子虫に成長します。
フィラリアの駆虫薬（予防の薬）は、第3期子虫（感染幼虫）、第4期子虫を駆除するものです
6. 駆除されなかった場合は、フィラリア成虫となります。
フィラリア成虫の寿命は、5~7年です。

図3 成長過程



フィラリアの検査

フィラリアの薬を飲んでいても 薬の吸収が悪く感染してしまうことがありますので、**毎年、1回目の駆虫薬投与前に検査をすることが大切です。**

<検査方法>

1. 顕微鏡で血液中のミクロフィラリアの有無を調べます
成虫がオスだけメスだけの場合は、ミクロフィラリアは陰性となります。
2. 検査キットを使って、フィラリア成虫がいるか調べます
フィラリア成虫の抗原が陽性の場合、フィラリア成虫がいます。

フィラリア駆虫薬

現在、月に1回飲むタイプの薬が 主流です。

フィラリアの薬は、予防薬ではありません。蚊に刺され、犬の体内に入った虫を、成虫になる前に殺す薬です。予防には、新しい薬、新しい方法を進められることもあります。

新しい薬は、副作用が、明確でないこともあります。緊急性がない場合は、従来の薬、従来の方法など、確実なデータがある方が安心できるかと思えます。

新しい薬、新しい方法に切り替える場合は、獣医師と十分に話しあってください。

薬を飲む期間

蚊の体内でミクロフィリアが第3期子虫（感染幼虫）に生育すると犬に感染を起こします。第3期子虫（感染幼虫）になるには、一定気温が必要ですので、気温によって、飲む期間が決まります。

飲む期間は、HDU(Heartworm Development heat Unit)という概念で計算されます。

※ 1日HDU=日平均気温-臨界温度(14°C) * 日平均気温=(日最高気温+日最低気温)÷2

1日HDUの合計が130になった日が感染開始の日。感染終了日は、30日間の合計が130を切る日。第3期子虫、第4期子虫の期間が、2～3ヶ月。この期間を考慮して、感染開始日から、1ヵ月後が駆虫薬の投与開始となります。また、大切なのは、飲み終わりの日をきちんとすることです。飲み終わりの日が早すぎると、駆虫されない場合があります。

例えば、2011年東京の感染開始日は5月20日 感染終了日は11月14日ですので投与開始は6月20日、投与終了は12月14日となります。

*注意1 ミクロフィリア陽性の場合

駆虫薬によって、ミクロフィリアが死亡し、ショックをおこす場合があります。

フィラリア駆虫薬に合わせて、ショック予防のお薬が必要です。

薬 服用時の注意

- 1、副作用を考え 動物病院と連絡が取れる時間に飲ませるようにして下さい。
- 2、フィラリア陽性の場合、ショック予防の薬も処方されます。
この場合は 先にショック予防の薬を飲ませてから 駆虫薬を飲ませて下さい。
- 3、体調の変化に気がいたら 早急に受診をして下さい。

フィラリアの治療

もし、フィラリアに感染していたら獣医師から、4つの治療方法を説明されると思います。どの方法を選択する場合も、獣医師と十分に話し合ってください。

1. フィラリアを殺す薬を注射する

ヒ素系の薬を注射して、体の中の虫を数回に分けて殺す方法。

フィラリアの死骸が肺に詰まる可能性もあり 犬が死亡する確率は2~3割になります。

2. カテーテルで、心臓のフィラリアを取り出す

血管から管を入れて、心臓の中にあるフィラリアを取り出す方法。獣医師の熟練度、施設の設備が必要なので、どこの動物病院でも可能な治療ではありません。

獣医師が慣れていれば、危険度は低いです。全身麻酔のため心臓へ負担がかかります。

3. フィラリアの駆虫薬を通年服用する

フィラリアの駆虫薬は、成虫を弱らすので 成虫陽性の間、年間通して服用し、成虫の寿命を短くする。少しでも、投与量を減らしたいと思う場合。駆虫薬は、第3期子虫、第4期子虫を殺す目的ですので、40日間隔で飲ませると、1年で、2回分減らすことができます。

4. フィラリアの自然死を待つ

フィラリアの寿命は、5~7年なので、フィラリアを増やさないように予防しながら、今いるフィラリアが自然死するのを待つ方法。 **毎年の予防を絶対に忘れないことが大切**です。

この場合も1同様に死んだ虫は体内に残るのですが、薬で一気に殺すわけではないので、動物の体が持つ体内の異物を掃除する働きによって、血管や肺に死体が詰まる可能性は極めて低いだろうと思われまます。気長な方法ですが、安全性は高いです。

(ただし、フィラリア症の症状がでた場合は、必ず動物病院へ行って下さい。)

フィラリア症の悪化について

フィラリア陽性の多くは 予防薬の通年投与や通常投与で数年後には陰性となります。しかし、中には症状が悪化する子がいます。一般的に、**症状の悪化に伴い“疲れやすい”、“咳”、“貧血”、“心雑音の悪化”などの症状出てきます。**が、**極まれに無症状のまま いきなり血尿が出る場合があります。**

保護犬レミは 無症状のままいきなり血尿が出て お星様になりました。

(http://mahirocker.web.fc2.com/remi/d01_kaishi.html)

あなたは家族だった～急性フィラリア症でお星様になったレミの闘病記～)

レミは 無症状だったため、血尿が出た時は“膀胱炎”と“急性フィラリア症”との区別がつきかねました。

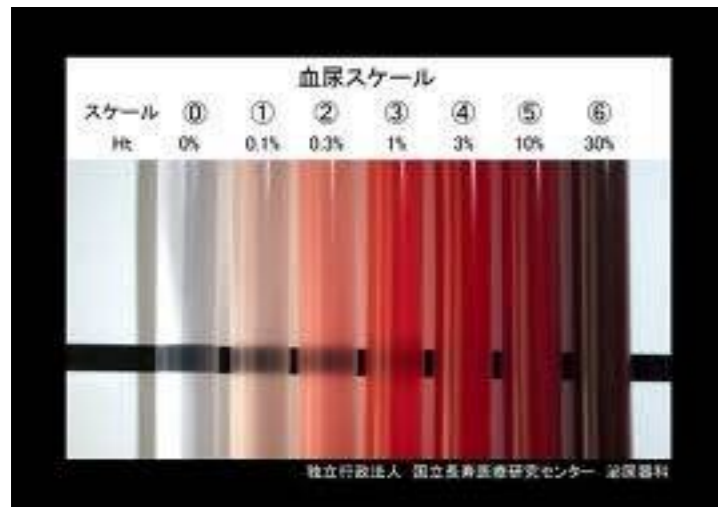


図4 血尿スケール (国立長寿医療センターHPより お借りしました)

①から⑥が血尿です。

フィラリア陽性の子で、

赤～ワイン色～茶～褐色の尿が出たら、

至急 獣医師に相談して下さい

また、咳、心雑音がなくても、心臓の働きが悪くなると酸素が不足するので 呼吸が増えます。

下記の症状が出たときは 獣医師に相談して下さい。

1、寝ているときにお腹が波打つような呼吸

2、横になって寝ることが出来ない。座位で寝る。

これら2つの症状は心臓の動きが悪くなったことを示唆します。